

資料 2

第3次伊豆市総合計画

基本構想（素案）

令和7年8月
伊豆市

第1章 伊豆市の将来像

1. めざすまちのテーマ

本市が将来にわたり魅力ある地域として成長し続けるためには、市民が主体となった協働によるまちづくりを推進し、地域の活力を最大限に引き出すことが求められます。同時に、市民の皆さまがふるさとへの誇りを抱き、希望を持ちながら、心豊かで幸せな日々を送れるような環境を整備することが重要です。

私たちは、こうした方向性を基本とし、市民一人ひとりの本市への愛情や未来への熱い思い、そして行動力を結集させることを目指します。また、伊豆縦貫自動車道の南進などの好機を活用し、他にない価値ある地域資源を最大限に活かしながら、伊豆半島の広域交流の拠点としての役割を果たしていきます。これにより、「人」と「まち」が活気に満ち、住むことに喜びを感じ、いつまでも住みたいと思えるような魅力と活力を備えた「持続可能なまち」を実現するため、以下の「めざすまちのテーマ」を掲げます。

守りながら変わり続けるまち・伊豆市

2. めざすまちのイメージ

まちづくりの基本方向を明らかにするための、「めざすまちのイメージ」を示します。

■まちの「形」～ネットワーク型コンパクトタウン～

誰もが住み慣れた地域で安心して豊かな暮らしを続けられるよう、各地域において利便性や快適性を向上させ、人々が集い活気あふれる拠点を形成することを目指します。同時に、拠点同士を結ぶ交通軸を維持し、機能的な連携を強化するとともに、他地域との交流や広域的な連携を促進します。また、コミュニティ機能の充実にも力を入れ、拠点と人の双方をつなぐネットワークの強化に取り組んでまいります。

■まちの「色」～風情と風格が漂う国際的な観光文化環境都市～

日本の原風景ともいえる水と緑に囲まれた豊かな自然や温泉、そして先人たちが築いてきた歴史や文化など、本市ならではの多彩な魅力や特色を大切に守りながら、それらを最大限に活かしていきます。また、伊豆半島の南西と南北を結ぶ交流の要所としての役割を果たし、他の都市では決して真似できない独自の風情と風格を備えた、国際的な観光文化環境都市の実現を目指して取り組みます。

■まちの「力」～地域への愛着や誇りを基調とした多様な主体による協働と連携～

少子高齢化や人口減少が進み、地域コミュニティの機能低下が懸念される中で、人と人、人と地域をつなぐ絆を支えることをを目指します。同時に、郷土の自然や歴史・文化に触れ、それらを守り育てる活動を通じて、地域への愛着や誇りを育むことをを目指します。これにより、本市を愛する多様な主体の情熱、知恵、そして行動力を結集し、協働と連携によるまちづくりを推進します。

3. 将来人口設定

人口ビジョンの改訂に合わせて設定します。

第2章 まちづくりの重点目標

1. 5つの重点目標

① 次代を担う人材を心豊かに育むまち（子育て・教育）

結婚・出産・子育ての各段階におけるきめ細やかな支援により、安心して子どもを産み育て、子育ての喜びを感じながら、親と子が共に成長することができる子育て支援を目指します。

地域の豊かな自然や文化と人々の温かさを活かし、特色ある学校運営を行うことで、子どもたちが生きいきと充実した学校生活を主体的に送るとともに、夢や希望を持って成長できる次代を担う持続可能な教育環境を目指します。また、家庭教育や放課後の居場所を充実させ、全ての子どもが安心して、心身ともに健やかに成長できる環境を目指します。

歴史・文化資源の活用による生涯学習や多文化理解、世代を超えた交流の推進により、市民の郷土愛と誇りを醸成し、誰もが自分らしく、地域にいつまでも住み続けたいと感じるような、地域を愛し楽しむ生活を実現します。

② 安全・安心で心地よく暮らせるまち（安全・安心）

福祉・医療の充実により、誰もが住み慣れた地域で安心して快適に生活できるまちづくりを目指します。

平常時と非常時の垣根を減らすフェーズフリーなまちづくりを推進し、誰一人取り残さない防災力が高く、安全なまちを目指します。

福祉・防災・環境における自助（自分自身でできること）、共助・互助（地域との支え合い）、公助（公的支援）のバランスが取れた生活環境を創出することで、誰もが安全・安心に暮らし、生活の質（QOL）を高められるまちづくりを目指します。

③ 人が集い活力あふれるまち（地域経済）

歴史・文化・景観を活かし、国際的な観光文化環境都市としての魅力を高めることで、多くの訪問者を引き寄せ、地域の活性化を図ります。また、事業者支援や企業誘致を通じて働きやすい環境の整備、農林業の担い手の確保による次世代への技術・伝統継承により地域経済の基盤を強固なものにするとともに、特産品の生産振興も促進し、地域の魅力を向上させ、選ばれるまちを目指します。

④ 人と自然が調和した魅力あふれるまち（生活環境）

「ネットワーク型コンパクトタウン」によるまちづくりを推進し、拠点集約型の都市構造への転換を進めながらも、各地区の地域特性を活かした拠点づくりと各種生活サービス・交通サービスを充足し、市民が生きいきと暮らせる豊かな生活環境を目指します。また、市民や企業などが環境問題に対する正しい知識を身につけ、カーボンニュートラルの取組や地球環境の保全に主体的に取り組むことをを目指します。

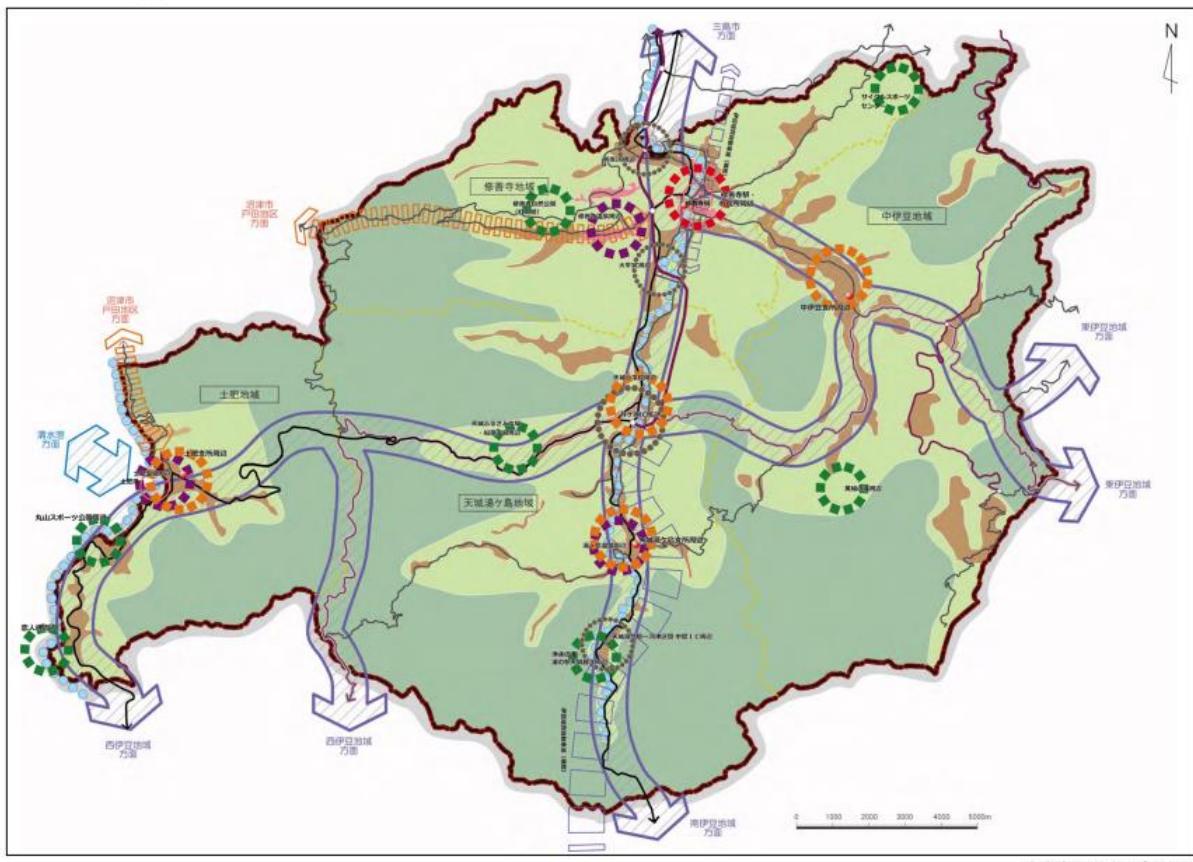
⑤ 将来にわたって持続可能なまち（行財政運営）

本格的な人口減少社会の到来や社会情勢の変化により、市内 GDP や税収が大きく落ち込む可能性がある中でも将来にわたって持続可能な行財政運営を推し進めるためには、長期的な視野に立った準備を周到に進めていく必要があります。施策の展開と行政改革の整合を図り着実な行政運営の推進を図るため、公共施設などの行政の経営資源を無駄なく最適配分しながら、民間活力の活用など引き続き事業の「選択と集中」を行う仕組みづくりや ICT 活用による効率化、コスト削減手法の導入などにより持続可能な行財政運営を確立することを目指します。

第3章 土地利用構想

1. 土地利用構想（国土利用計画）

国土利用計画として設定します。



都市計画マスター・プランより

基本計画

政策の体系

基本構想		基本計画		
重点目標		政策		施策
1	次代を担う人材を心豊かに育むまち（子育て・教育）	1	子育て	1 子育て支援 1 多様化する社会に対応する教育環境づくり 2 伊豆市が誇る文化・芸術資源の活用 3 ふるさとの魅力を学ぶ機会の創出
		2	教育	
		3	健康医療・福祉	1 個人の行動と健康状態の改善 2 スポーツによる健康増進 3 社会環境の質の向上 4 共に支え合う地域福祉の推進
		4	防災	1 災害などリスクに強いまちづくり 2 災害死者ゼロを目指す地域力・防災力の強化 3 砂防・急傾斜事業促進による市民生活の安全・安心
2	安全・安心で心地よく暮らせるまち（安全・安心）	5	防犯	1 地域で守る安全な暮らし
		6	観光	1 魅力の向上と持続可能な観光地域づくりの推進 2 新たな観光財源の確保
		7	地域産業	1 企業誘致や雇用創出に向けた取組の強化 2 農林水産資源の多面的な活用 3 日本一の「わさびの郷」の創出と未来への継承
		8	地域力	1 まちづくりの多様な担い手の育成 2 新たな交流人口の創出 3 空き家を活用した住環境の整備
		9	地域インフラ	1 魅力あふれる拠点の創造 2 快適な公共空間の創出 3 上下水道施設の適正配置 4 地域インフラの持続的な維持管理 5 地域生活交通の確保
4	人と自然が調和した魅力あふれるまち（生活環境）	10	環境	1 里山の保全と有害鳥獣対策 2 持続可能な環境未来都市の実現
		11	行政経営	1 収納対策の強化 2 財源の確保 3 市民サービスにおける利便性の向上及び事務事業の効率化 4 行政 DX による生産性の向上 5 公共施設の適正化
				1 開かれた地域づくりの推進
5	将来にわたって持続可能なまち（行財政運営）	12	参画・協働	